

9

政策統括官（総合政策担当）

社会保障政策と労働政策については、それぞれの施策ごとのきめ細かい対応に加え、それを一体的にどのように進めていくかという視点が必要です。政策統括官（総合政策担当）は、このような観点から、厚生労働行政が目指す将来の姿を総合的に考える役割を担っています。数理職員は社会保障制度の企画・立案に必要な将来の全体像の推計や労働経済の分析などの分野で活躍しています。

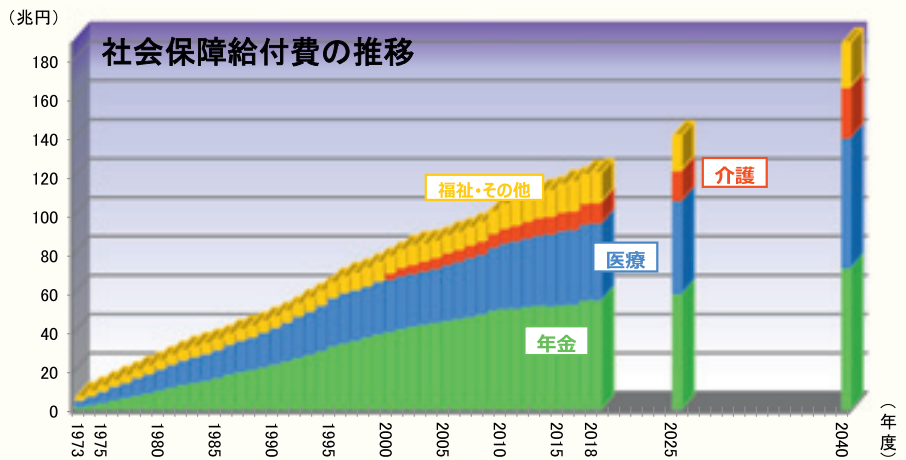
社会保障担当参事官室

社会保障の将来像を描くための道しるべに

グラフは、年金・医療・介護・福祉といった社会保障に関する国民への給付が過去どのように推移し、また将来どのような規模になるのかを示したものです。

高齢化が進むのに合わせて、社会保障の費用は急速に上昇していきます。その中で、我が国の社会保障が将来どうあるべきか、その財源はどう考えるべきかといった問題を総合的に検討しています。

数理職員は、いくつもの社会保障制度をすべて重ね合わせてこのような将来見通しを作成することにより、社会保障の全体像を描くための重要な役割を果たしています。



労働政策担当参事官室

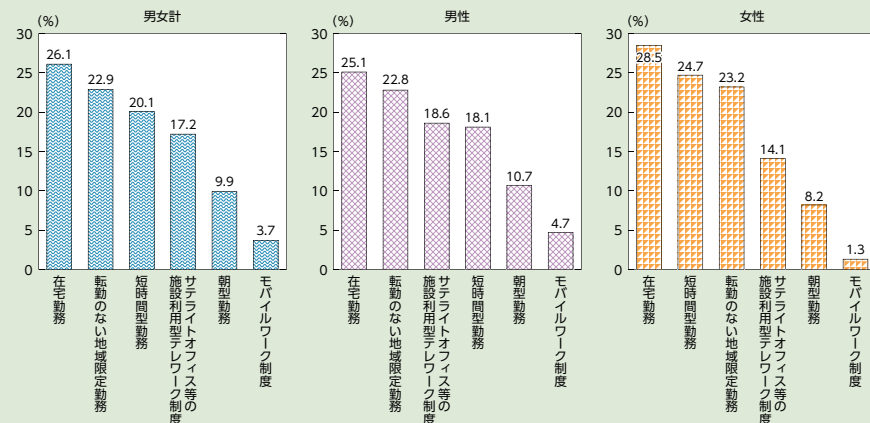
戦略的な労働政策、機動的な対策を実施するための労働経済の分析

社会経済構造の変化を的確に捉え、これに対応するため、労働経済情勢についての分析・検討や労働経済白書の作成などを行っています。平成30年版労働経済白書は「働き方の多様化に応じた人材育成の在り方について」というテーマで分析を行っています（下のグラフは「新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態」をみたものです。）。

数理職員は、このような経済分析作業にも携わっています。

コラム2-7図 新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態について

- 新入社員が「働き方改革」で最も関心のある勤務形態をみると、男女計では「在宅勤務」「転動のない地域限定勤務」「短時間型勤務」が上位3位となっている。



資料出所 (公財) 日本生産性本部「2018年度 新入社員 春の意識調査」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて作成
 (注) 本調査のサンプルサイズは1,914となっている。

(平成30年版労働経済白書より抜粋)